

体育専門学群

School of Physical Education, Health and
Sport Sciences

学士(体育学)

■ Bachelor of Health and Physical Education

■ 人材養成目的 ■

優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に、体育・スポーツ及び健康に関する総合的な知識と最新の科学的知見を活かしながら、組織を的確にマネジメントして諸々の問題解決を図ることのできる知・徳・体を具備した体育・スポーツ界のリーダーを育成することを目的とします。

■ 求める人材 ■

体育・スポーツ・健康に関する領域に強い関心があり、教養を高め運動経験の幅を広げるだけでなく、これまで身につけた運動技能や関連する知識をさらに高めて、体育・スポーツの国内的・国際的发展に貢献する情熱と意欲を持った人材。

卒業後の進路

卒業生の約25%が大学院に進学しています。大学院修了後も含め、教員、企業、公務員、NPO・NGOなど、体育・スポーツ界はもとより、幅広く各界に進出し国内外で活躍しています。

大学院進学 の例

■筑波大学大学院…人間総合科学研究科

■他大学大学院…東北大学、金沢大学、埼玉大学、上越教育大学

就職先の例

企業・団体

■スポーツ関連企業・クラブ…ミズノ、アシックス、横浜マリノス、清水エスパルス、ベガルタ仙台、水戸ホーリーホック、千葉ロッテマリーンズ、日本野球連盟(JABA)

■マスコミ・出版…NHK、フジテレビジョン、TBSテレビ、テレビ朝日、読売テレビ、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、ベースボール・マガジン社

■金融・保険…三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ銀行、常陽銀行、野村証券、日本生命保険、明治安田生命保険

■運輸・旅行…JR東日本、JR西日本、全日本空輸、日本航空、JTB法人東京

■商社・流通…丸紅、伊藤忠商事、住友商事、住金物産、双日、豊田通商、三越伊勢丹

■食品・医薬品…キリンビール、味の素、ロッテ、大塚製薬、アステラス製薬、資生堂

■機械・電機…トヨタ自動車、ヤマハ発動機、日立製作所、東芝、富士通、日本電気

■情報・通信…NTT東日本、NTTドコモ、ソフトバンクグループ、楽天、ヤフー

■建設・不動産…積水ハウス、清水建設、大東建託、タマホーム

■サービス…電通、博報堂、セコム、総合警備保障、国際警備保障

学校教員

■公立…全国各地の公立中学校・高等学校

■私立…茗溪学園中学校・高等学校、開成高等学校、ラ・サール高等学校・中学校、立命館中学校・高等学校

官庁・自治体・独立行政法人等

国立スポーツ科学センター、警視庁、県警、自衛隊、東京消防庁、つくば市、横浜市

教育の質の保証と改善の方策

■学生の学習意欲向上のための成績評価観点と基準を設定し、シラバスに明記して、教員と学生双方の共通理解の上に、授業の運営並びに成績の評価を行います。

■体育専門学群FD委員会を中心に、学生による授業評価と教員相互による授業参観などを実施し、その結果を授業改善の基礎資料として、担当教員にフィードバックします。また実技の映像や基本的な学習内容を特定のホームページにアップし、いつでも学生が自学自習できるようにしています。

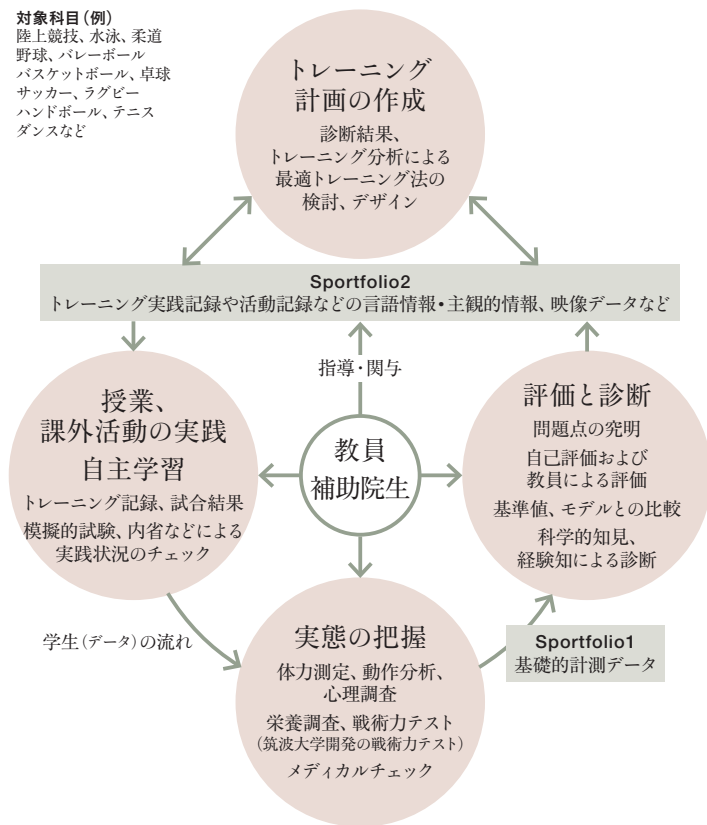
■幅広い実技・指導能力と学力の修得状況を学生と教員が相互に確認し合い、教育と学習の方向性を明確にするため、実技検定を実施し、各自の運動能力と指導力の向上を支援する体制を整えています。

■大学院生と連携した演習を通して、質の高い授業を展開するとともに、大学院進学への意識を啓発します。

■大学と協定を結んでいる外部団体と連携して研修会等を実施し、国際交流や国際開発への意識を高めます。

ループ型教育システム(データ活用・実践的指導力向上へ対応)

対象科目(例)
陸上競技、水泳、柔道
野球、バレーボール
バスケットボール、卓球
サッカー、ラグビー
ハンドボール、テニス
ダンスなど



学士（体育学）

Bachelor of Health and Physical Education

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（体育学）の学位を授与します。

■ 幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。

■ 特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力を身に付けている。

■ 体育・スポーツ・健康に関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。

■ 体育・スポーツ・健康に関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。

■ 嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力（外国語能力を含む）を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針

学士（体育学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

主専攻は体育学1専攻です。体育・スポーツ・健康に関する知識や理念の学習と運動実践や健康科学に関する演習を通して、体育・スポーツ界のリーダーに必要な知・徳・体を身に付けます。体育学を創設した嘉納治五郎先生の理念に触れつつ、これからの社会に必要な体育・スポーツのあり方についても追究します。

順次制に関する方針

■ 1年次及び2年次には、専門基礎科目を中心に、体育・スポーツ・健康の領域にかかわる理論的な授業と臨海実習などの実技授業を通して、基礎的・総合的な知識と技能を身に付けます。嘉納治五郎先生の理念と行動についても学びます。また、運動実践に関する自身の課題を科学的データに基づいて分析するという学習を行います。この学習成果に基づいて、自らの履修計画やトレーニング実践を設計するとともに、自身の課題の解決のためのプログラムを創り出して、課題解決に取り組めます。

■ 3年次には、それまでに修得した実技レベルや学科レベルを自己評価・点検しつつ、体育・スポーツに関するより専門的な理論を社会との関係と絡めて学修し、知識・技能および指導力のさらなる向上を図ります。また、自分自身の関心の高いテーマ

を学問的に追究するために、卒業研究領域(39領域)の一つを選び、当該分野の最新の科学的知見を学修し、3、4年次で卒業論文を完成させることになります。これは学群教育の到達点であると同時に、大学院進学への足がかりにもなります。

実施に関する方針

卒業研究領域の選択を含めて、各授業科目の選択は学生の自主性に任せられていますが、基本的な履修モデルを作成し、学修プロセスを示しています。本学群では、教育課程全体を通じて学生の課題解決学習が重視されており、特に実技授業においては映像データなどの豊富なデータベースが用意され、自学自習できるように工夫されています。

学修成果の評価に関する方針

学群全体としては、単位修得状況、卒業

研究、GPA、免許・資格の修得状況から、学群としての学修成果の達成状況を評価します。各授業科目については、試験、レポート、毎回のコメントペーパーの結果から、シラバスに設定された授業の目的および到達目標に照らして学修成果の達成状況を評価します。

特色

夏には、海外からの研究者の講義を英語で学ぶ機会が提供されているとともに、海外からの学生との交流も行われます。さらに本学群では課外活動としての運動部活動による教育も重視しています。課外活動では、自らの競技力の向上を図るとともに、専門性の高い科学的指導法を学びます。また、豊かな人間性と国際交流に貢献する姿勢を身に付けることも目指しています。

育成する能力とカリキュラム構成

1年	2年	3年	4年
専門基礎科目(約40単位) 体育学を専門的に学ぶ全ての学生に必要な最低限の基礎的知識と運動技能を学修する科目群		専門科目(約50単位)	
体育・スポーツ学関連科目(10単位) コーチング学関連科目(4単位) 健康体力学関連科目(10単位) 実技理論・実習(8単位)ほか		キャリア支援科目(10単位) 体育・スポーツの職業領域で活用される実践的な知識・技術を習得する科目群	
		分野別専門科目(10単位) 体育学を構成する個別専門諸学の専門的知識を発展的に学習する科目群	
		卒研究領域科目(14単位) 選択した研究領域の最新の知見や研究方法を習得する演習・実習型科目及び卒業研究	
		実技系科目(3単位) 専門とする運動種目の実技力と指導力のレベルアップを目的とする科目群	
		基礎科目(約30単位) 総合科目、外国語、情報処理、国語など	
教職科目			